



アクアステルスが、吸い付く吸い付く

## 越後駒ヶ岳 水無川 モチガハナ沢スラブ沢

飯田

【日時】 2008年10月12日(日)～13日(月)

【メンバー】 L飯田、田邊、棚橋

越後駒ヶ岳をめぐる沢は5本ほどある。

佐梨川・大チョーナ沢、北ノ又川・滝ハナ沢、水無川・北沢、オツルミズ沢、そして今回廻行した、一番マイナー？なモチガハナ沢スラブ沢である。

マイナーな沢が大好きな大野さんと、昨年から「一緒に行きましょう」と話していたのだが、大野さんは3日間使って奥利根ではマイナーな幽ノ沢へ行くということなので、残念ながら、大野さん抜きで山行となってしまった。

水無川はオツルミズ以来なので7年ぶりとなる。

立派な駐車場には立派な二階建てトイレが出来ていた（二階には入れない）。

7時前に、その駐車場を出発。今年、棚橋さんは何度この林道を歩いたのだろう。

懐かしいオツルミズの出合を過ぎて、30分ほどでモチガハナ沢出合へ。

三俣まではゴーロが続き、問題無い。

さて、ここで今回の山行の最大の不安点をあげておこう。

「何でこんなに沢に行っていないんだ」と自分でもおどろくほど、今年は沢に行っていない。（本当に何でだ??）この沢は、なんと海の日連休以来...

記録の少ない沢なので困難度が読めないが、田邊・棚橋というトマのトップクラスの両氏がいるので他力本願的に「何とかなる」いや「何とかしてくれる」とそれほどの不安感はない。

逆に、その両氏に「置いていかれないか?」「お荷物にならないか?」というのが今回の最大の不安点である。

左俣を進み、V字状ルンゼを越えると、いよいよ水無川という雰囲気になってくる。

V字状ルンゼを過ぎ3m滝を左岸の泥ルンゼから小さく高巻くが、上に上がってもバンドには泥などが堆積していて足場が定まらず、いやらしい。ここが、一番の核心かも。

どうにか三人集まれる場所までバンドを移動して、そこから1ピッチロープを延ばす。

最初はバンドを左上し、ルンゼを上がって灌木でビレイ。

ここからは灌木帯を田邊さんが絶妙のライン取りでトラバースし、20m滝を越えたあたりから25mの懸垂で川床に降りた。



モチガハナ沢には雪渓は残っていなかったが、オソロシ沢には大量の雪渓が残っていた。



その後、伏流になって出合うスラブ沢までは問題になる場所は無い。

写真のスラブ沢出合の60m滝は左岸のスラブ帯を自由・快適に登ることができる。

素晴らしい紅葉の中、アクアステルスが吸い付くスラブを快適に登ると、第一、第二スラブの右俣と第三、第四スラブの左俣に分かれる。

目的は第一スラブだが、より開けている左俣を登り、途中から右俣に戻った。



← 第一スラブを登る。

ヌメっているように見えるが水流部分も滑るようなことは無い。(タワシ不要)

その後も、快適に登っていたが、目測を誤ったせいもあり、マキガクラノツルネの稜線直下から藪(4級上)を漕ぐはめになってしまった。



途中から、オツルミズ側に出て草付をトラバースしたが、最初からそうすれば良かった。トホホ。

← オツルミズ沢右俣源頭

今年2度目の山頂で記念写真を撮り、駒ノ小屋の近くでツェルト泊。この日、駒ノ小屋には50人が泊まっていたそうだ。

この晩、三人のA45は、充実つまみを出し合い、お酒を飲みながら盛り上がり、笑いっぱなしの楽しい夜になった。（このメンバーで泊まりの沢は初めてか？）



翌朝はゆっくり起きて、9時頃出発。足がガクガクになったころ、やっと極楽尾根を下りきる事ができた。

（あと、高度差が100m多かったらやばかったなあ）

← 快晴の中 極楽尾根を下る

スラブ沢は、右俣よりも左俣の方が開けているので、左俣も楽しいと思います。

す。

また、話聞くモチガハナ沢右俣のような悪いガレ場も無く、一日で抜けられる水無川流域の入門コースとしてお勧めします。快適ですよ。

PS：なんとか置いていかれずに済みましたが、翌日からの筋肉痛がひどかったっす。

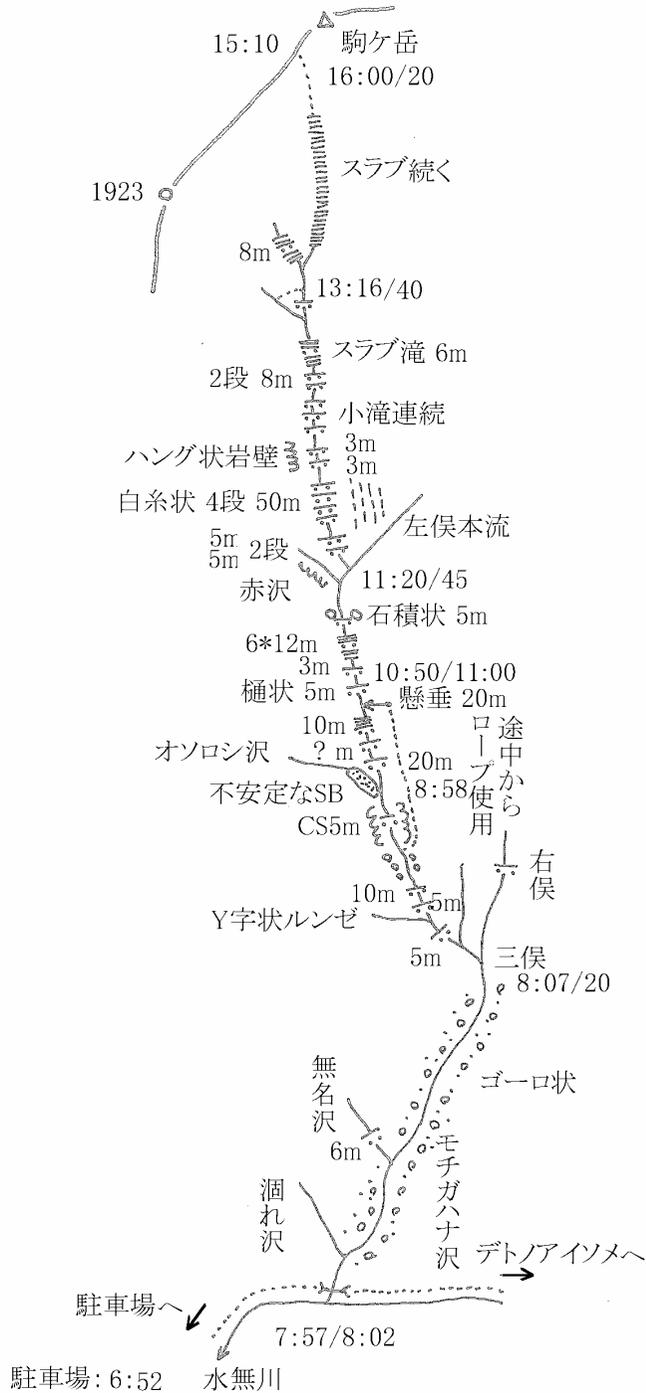
【グレード】3級（雪渓無しの場合）

【行程】10/12 森林公園(06:50)～モチガハナ沢出合(07:25)～三俣(08:05)～

スラブ沢出合(11:40)～マキグラノツルネ(15:10)～駒ヶ岳(16:00)

10/13 駒ノ小屋(08:55)～極楽尾根経由～森林公園(13:00)

【地図】八海山



越後三山／水無川モチガハナ沢スラブ沢

【日時】 2008年10月12日(日)～13日(月)

【メンバー】 飯田(L)、田邊、棚橋

【作図】 棚橋